

目 次

本講座の刊行にあたって

はしがき：プライバシー権論の見取り図

執筆者紹介

第I部

実体論

第1章 仮想現実とプライバシー

[原田伸一郎] 3

1. はじめに：バーチャリティと法 3

2. メタバースにおける匿名性 5

現実空間との対比／自己情報開示のコントロール／「身バレ」問題

3. アバターに対する肖像権 10

CG アバターとしての肖像／アバターの盗撮／バーチャルカメラのアーキテクチャ

4. バーチャルな身体 15

仮想的身体の自由／メタバースハラスメント／パーソナルスペース

5. メタバースという監視空間 22

環境型カメラ／「センサーのお化け」／オープンメタバース

6. アバターのアイデンティティ 29

自己イメージコントロール権／アバターポータビリティ権

7. おわりに：プライバシー権論への示唆 33

第2章 “メンタル・プライバシー”と認知過程の自由

[小久保智淳] 35

1. はじめに 35
2. “認知過程”への照準：ポスト・認知革命の時代 36
“心”の科学の進展／機能イメージングの登場：認知神経科学・計算論的神経科学／小括：「情報システム」としての人間理解
3. “認知過程”に迫る技術 43
推測される“認知過程”／操作される“認知過程”
4. 神経系に対する法的保護の試み：「認知過程の自由」 54
包囲された“最後の砦”／“Mental Privacy”／“Freedom of Thought”／小括
5. 導きの糸としての「神経系」への注目 62
ファラハニーの“cognitive liberty”論に欠けるもの／“情報システムとしての神経系”に対する照準

第3章 データ保護における基本権構想：情報自己決定権・データ保護基本権再訪

[高橋和広] 66

1. はじめに：データ保護を巡るドイツの議論が、日本にとって持つ意義 66
2. 日本のプライバシー権論における論争と課題 67
出発点：私的領域保護／自己情報コントロール権の登場／自己情報コントロール権の発展／自己情報コントロール権に対する批判・再構成／日本の最高裁判所判例／小括
3. ドイツにおける情報自己決定権の展開 75
前史：先行の保護利益（私的領域保護と自己の人格の描写）／国勢調査判決／国勢調査判決以降の展開：連邦憲法裁判所の新たな決定／小括
4. EU法における展開：データ保護基本権 85
欧州基本権憲章に関する概説／欧州基本権憲章8条
5. 考 察 89
分析結果／将来の展望

6. おわりに：情報自己決定権及びデータ保護基本権を参照することの
意義 93

第4章 個人情報保護法における明文なき違法性阻却事由

[板倉陽一郎] 95

1. はじめに 95
2. 懲戒請求者リスト証拠提出事件とその判示 96
懲戒請求者リスト証拠提出事件／裁判例／分析
3. 不法行為上の違法性阻却事由による個人情報保護法違反の違法性
阻却 100
あり得る論理／行政実務
4. 個人情報保護法における明文なき違法性阻却事由の実務上の必要性和
適用要件 107
個人情報保護法における明文なき違法性阻却事由の実務上の必要性／個人
情報保護法における明文なき違法性阻却事由の実務上の適用要件
5. 個人情報保護法における明文なき違法性阻却事由と立法論 110

第5章 個人情報の適正な取扱いとは何か

[音無知展] 112

1. はじめに：適正な取扱いの不明確さ 112
2. 権利の内容又は定式と違憲審査の枠組みの具体的内実 113
3. 適正さに内在する衡量が依拠する観点と不適正取扱いの具体化 117
裁判例・答申の分析／個人情報の適正利用状況秩序への影響として捉える
意義とその例証／他の学説との比較からみる特徴
4. 個人情報の適正利用状況秩序への影響論と基本権たる地位 138
5. おわりに：個人情報の利用状況を維持・促進する秩序に着目した
権利へ 141

第6章 情報プライバシー権論争の基底にあるもの ：デジタル化と〈個人〉

[山本龍彦] 143

1. はじめに 143

2. 批判的自己情報プライバシー権論の概要 144

プライバシー権論の展開：概要／第3期の議論の特徴：「表現の自由」との
類推

3. 「論争」の基底にあるもの 151

共通点／対立の基底：デジタル社会と個人／小括

4. おわりに 164

第Ⅱ部

救済論

第7章 プライバシー権侵害に対する救済

[安永祐司] 167

1. はじめに 167

2. プライバシー権侵害を巡る権利救済の現状 167

プライバシー権概説／裁判手続を通じた権利救済／個人情報保護委員会に
よる権利救済

3. 我が国のプライバシー権侵害に対する救済制度が抱える課題と

対応策 187

3年ごとに見直しに関する検討会と最近の立法課題／個人情報保護委員会を
通じた権利救済の課題／裁判手続を通じた権利救済の課題

4. おわりに 194

第8章 個人情報保護委員会の独立性

[沼本祐太] 196

1. はじめに：独立行政委員会の一種としての個人情報保護委員会 196

2. 個人情報保護委員会の概要 198
個人情報保護委員会の成立と発展／個人情報保護委員会の組織構造と権限
3. 憲法と独立行政委員会 210
独立行政委員会の合憲性／組織編成権者と組織形態選択
4. 個人情報保護委員会の独立性 214
政治的中立性／専門性・技術性／「完全な独立性」に関する2010年の欧州司法裁判所判決
5. おわりに：個人情報保護委員会の独立性を問う意味と
今後の課題 223

 第Ⅲ部

立法論（展開と過程）

第9章 各国のプライバシー・データ保護法の理解と 国際協調の可能性

[石井夏生利] 229

1. はじめに：プライバシー・データ保護法の世界的広がり 229
プライバシー・データ保護法の制定状況／EU のデジタル政策とデータ保護
2. プライバシー権の歴史的発展とデータ保護法制の展開 235
アメリカにおけるプライバシー権の提唱とその発展／EU によるアメリカの議論の継受と立法的展開／国家安全保障を重視した個人情報保護制度の登場
3. 越境データ移転制限を巡る攻防 242
充分性認定制度及びその背景／EU とアメリカの対立／越境プライバシールール
4. データ・ローカライゼーション 250
データ・ローカライゼーション規制／データ・ローカライゼーションの問題点

5. おわりに：プライバシー・データ保護法の国際的協調を巡る複雑な
関係 256

第10章 ポストデジタル時代における政策形成過程と 議会制民主主義

[小川有希子] 260

1. はじめに 260
2. 日本におけるプライバシー保護法の規範形成過程 261
企画立案者としての個人情報保護委員会／ステークホルダーとしての経済
団体／個人情報保護委員会におけるマルチステークホルダー・プロセス／
マルチステークホルダー・プロセスの実態
3. 欧州におけるロビー活動透明化法 267
欧州におけるロビー活動の意義／ロビー活動のコントロール
4. 議会制民主主義と調和的なマルチステークホルダー・プロセスの
可能性 273
マルチステークホルダー・プロセスの課題／自主規制に関する従来議論
5. おわりに 280